ケラレタダケアッテソノ一枚毎ニ不滅ナル先生ノ人格ガ活躍シテ居マス

此立派ナ標本ヲ飾リツケテ御高覧ニ備フベキ日ヲ思フ毎ニ血ハ湧キ肉ハ躍ルノデアリマス父ガ生前小學校ノ講堂ヲ區カラ讓ッテ戴イテ建造シタ正元館モ會下山公園ニ兵庫ノ市街ヲ見下シナガラ開館ノ日ヲ待チ顔ニ控エテ居マス

研究所ヲ早ク植物博物館ニシタイトカ實用植物ノ研究ヲモ遂ゲテ實生活ニ利シタイトカ先カラ先ヘ希望ニ追ハレナガラ又兵役服務ノ爲ニ心急ガレナガラ日々努力ハシテモ不肖ニシテ力及バズ熱烈ナル先生ヤ同好諸賢ノ御心ニ副フコトヲ得ナイノハ誠ニ申譯モ無イ次第デ御座イマスガ幸ニ微力ナル私ヲ御見捨無ク手ヲ持チ足ヲ取リソヘテ何卒幾久シク御援助ノ程ヲクレグレモ宜シク御賴ミ申シマス

○日本植物學界ノ世界ニ於ケル地位（承前）

牧野富太郎

其頃ノ矢田部博士ノ講義ハ全然英語デアッタ今日デハ日本語デヤル樣ニナッテ居ルガ然シ其中ノ術語ハ主トシテ獨逸語ヲ用ヰテ居ル矢田部博士ノ在職中卒業生等ガ獨逸ヲ目ガケテ留學シ歸ッテカラ獨逸語ヲ使用スル樣ニナリソシテ其レガ追々ニ進ンデ行キ今デハ雜誌デモ書籍デモ獨逸語ノモノガ隨分多ク使用セラレテ居ル是レハ勿論徒ニ獨逸ヲ崇拜シテヤッタ事デハナク獨逸ハ學者モ多ク學問モ進歩シテ居リ且植物ニ關スル書物ヤ雜誌ノ數モ多イカラ自然ニ此ンナ勢ガ馴致セラレタノデアル英國ニモ佛國ニモ無論ヨイ雜誌ヤ書物ガ決シテ無イコトハ無イガドーシテモ獨逸ノ方ガヨリ多イノデアル英國デハ其獨逸書ノ中デ最優秀ナモノヲ英文ニ飜譯シテ出版シテ居ルモノガ少クナイガ此等ノ書物ガ續々英文ニ譯セラレタ所ヲ以テ見テモ其原著ガ如何ニ良書デアルコト

日本植物學界ノ世界ニ於ケル地位（承前）

ガ首肯セラル、ヴㇵインス、バルフォーア、スコット、オリヴㇵー、ワード、ボーワー、フㇵーマー、タキスター、ギブソン、グルーム、エワート、ヂョーンス、ダヴィス等英國ニモ勿論數限リナイ學者ガアッテ從テ種々ノ書物ガ出版セラレテ居ルガ然シ右ノ樣ニ獨逸ノ書ヲ英譯シテ其レヲ堂々ト英國デ出版シテ居ル所ヲ以テ見レバ如何ニ獨逸ノ學問ニ權威ガアルカガ分ッテ來ル此英譯セラレテ居ルモノニハザックス、ヘルマン、ミュルレル、ド、バリー、ゲーベル、フィッシェル、シンペル、ソレヽデル、フェッフㇵー、クヌート、ストラスブルゲル、ワルミング、ソルムスローバッハ等ノ大家ノ著書ガアル其中ニハ折角英國デ之ヲ飜譯シ其第一版ヲ出シタ頃ニハ獨逸ノ方デハ已ニ二版三版モ重ネ其間ニ訂正モ修正モシテ居ルト云フ次第ノモノモアルコンナ勢ダカラ自然ニ學者デモ留學生デモ日本カラ獨逸ヲ目ガケテ行ク樣ニナルノハ決シテ無理ハナイ此樣ニシテ日本ノ方モ歲ヲ閱、月ヲ重ヌルニ從テ段々ト進ンデ來タノデアル

日本ノ植物學ノ中心ハ何ント言ッテモ帝國大學デアル然シ年々植物學科ヲ卒業シテ出ル者ガドノ位アルカト云フト我東京帝國大學理科大學デ此科ヘ來ル學生ハ全體ニ誠ニ少ナイ一年ニ全ク無イト云フコトハ稀デアルガ少ナイ年ハ一人、多クテ四五人モアレバ先ヅ繁昌シタ年デアル、カヤウニ頗ル小人數デハアルガ然シ此人々ガ年々出デテ我帝國ノ植物學界ノ中堅ニナッテ行クノデアル其中ニハ卒業後朝カラ晩マデ研究ニノミ身ヲ委スルト云フコトノ出來ナイ人々ガ多イ其人々ニハ止ムヲ得ヌ內情ガアッテ大抵ハ學校ノ先生トナリ或ハ中學或ハ高等師範或ハ高等學校ナドニ勤メテ居ルガ中ニハ亦大學ニ殘ッテ專心研究ニ沒頭シテ居ル人モアル然シサウ云フ人ハ先ヅ少數デアル是等ノ研究者ハ大學發行ノ『大學紀要』トカ西洋ノ雜誌トカニテ自己ノ研究シタ事柄ヲ發表スルノヲ常トシ研究ヲ續ケテ居ルノデアル始メハソー盛ンナ譯デモナカッタガ今ハ世界ニ對シテ恥カシクナイモノモ出來ルヤウニナリ段々ニ進歩シテ來テ斷エズ我日本ノ植物學ガ世界ニ紹介セラレ次第ニ世界的ノ色彩ヲ帶ビテ來タ是レ迄ノ研究デ疾クニ名高クナッテ居ルモノヽ中ニいてふノ精蟲トそてつノ精蟲トノ發見事項ガアル

日本植物學界ノ世界ニ於ケル地位（承前）

是レハ世界ノ學者ヲアット言ハセタ研究デ今デモ其論文ハ能ク教科書ナドニマデモ引用セラレテ居ル其いてふノ精蟲ノ發見者ハ平瀬作五郎氏デアッタ同氏ハ植物ノ畫ヲ描ク爲ニ其時分助手トシテ東京デ大學ノ植物學教室ニ勤メテ居ッテ其時之ヲ研究シタノデアル然シ此研究ニハ始終ドレ程池野成一郎氏カラノ助力ヲ得タノカ知レナイ平瀬氏ハ性來器用ナ人デアッタガ疾クニ去ッテ今ハ大學ニハ居ラレナイ又そてつノ方ハ右ノ池野成一郎氏自身ノ研究デアル氏ハ人モ知ル如ク農科大學ノ教授デアッテ我邦今日第一流ノ學者デアル、ドウシテ此等ノ研究ガ騷グ程ノ價値ガアルカト云フトいてふ(Ginkgo biloba L.)ハ面白イ珍ラシイ木デ是レ迄或ル時ハ松ヤ檜ノ仲間ニ入レラレ又或ル時ハ一位（いちゐ）ノ仲間ニ伍シテ居ッタ、トコロガ此精蟲ガ發見セラレテカラハ此植物ノ天然ノ位置ト且ツ他ノ緣近キ植物トノ關係ナドガ能ク判ル樣ニナッテ其いてふヲシテ他ニ比類ノナイ珍品タルコトヲ能ク發揮セシメタカラデアル此研究ニヨリいてふハ一位ヤ杉ヤ松ノ仲間カラ脇ニ取除カレ別ノ處ニ嚴然ト位置ヲ占メ一躍シテ松杉科(Pinaceæ)一位科(Taxaceæ)ヲ綜ベル毬果門即チCONIFERAEト肩ヲ並ベテ同ジ樣ニ座リ得ル事トナッタ、ツマリ位ガ上ッタ、スバシコイ西洋人ハ東洋デ彼ノ精蟲ガ發見セラレタト聞クガ早イカ大急ギニいてふ門即チGINKGOALESヲ新設シテいてふ科Ginkgoaceaeヲ其中ニ置キ之ヲそてつ科Cycadaceaeヲ含ムそてつ門即チCYCADALESノ隣リニ置イタ其レカラ又そてつモ其精蟲ノ發見ニヨッテ是モ同樣他ノ植物トノ關係ガ明カニナリ爲メニ此等ノ植物方面ノ事柄ガ充分ニ判明シテ來タ此樣ニいてふノ木並ニそてつノ木ニ精蟲ガ居タト云フコトハ全ク意外ノコトナノデ世人ガ驚イタノモ決シテ無理ハナイノデアル、色々ノ研究ノ中ニハ至ッテツマラヌコトモアルガ一方ニハ亦此樣ナ前人未發ノモノモアル主トシテ此等ノ研究ニヨッテ日本ノ植物學ガ段々ト西洋人ニモ知ラレテ日本モ馬鹿ニナラヌト思ハレル樣ニナッタ引續キ種々ノ論文ガ出來テ彼ノ『大學紀要』デ發表スルトカ外國ノ雜誌ニ登載スルトカシテ續々公表セラレテ居ル又小サキ研究ハ原ト私等ノ拵ヘタ『植物學雜誌』(東京植物學會發行)ニ載セテ世界ニ向ヒ發表シテ居ル此『植物學雜誌』ハ今日デハ創刊ノ時ヨリ三十一年

ヲ經過シテ居ルガ兎ニ角「オリヂナル」(獨創的)ノ研究ガ載ッテ居ルノデアルカラ假令小キ雜誌デハアッテモ世界ノ學者ハ之ヲ見逃ガスト云フ譯ニハ行カナクナッテ居ル此樣ニ日本人ガ研究ヲ續行シ且ツ其ノ研究論文ヲ世界ニ向ッテ發表スルノデ段々ト我ガ植物學ガ發達シ今日デハ西洋人モ確實ニ日本ノ植物學ノ存在ヲ認ムル樣ニナッテ來タノデアル　(未完)

○日本植物名ノ新考

理學博士　松村任三

此篇ハ松村博士ガ大正七年六月二十二日東京植物學會例會ノ席上ニ於テ爲サレタル講演ノ筆記ニ係ル今此ニ列擧セラレタル數多ノ植物名中ニ特ニ普通ノ植物ヲ漏セルハ此等ハ本講演以前既ニ世間ニ發表セラレタルヲ以テナリ

筆記者識

(1) Ad-ki (**アヅキ**) 益饑　(小豆)

益(at)　饑(ki)　饑ニ利アルノ意

(2) Aia-me (**アヤメ**) 艶美　(溪蓀)

艶(an=ai)　美(me)　花ノ美ニ取ル

(3) Aka-kanga-chi (**アカカガチ**) 赫圏子　(酸漿)

赫(ak)赤色ナリ　圏(kang)圓形　子(chi)　果實ノ形ト色トニ取ル

(4) Ake-bi (**アケビ**) 呀皮

呀(ak)口ヲ開クナリ　皮(bi)　熟果ノ披裂スルニ因ル

(5) Ara-me (**アラメ**) 硬湄

硬(ang=ar)硬固ナリ　湄(me)水草ナリ　水濱ニアリ其質硬固ノ植物

(6) Asa (**アサ**) 繹　(麻)

繹(at)　長ク引キ出スノ意

(7) Asa-za (**アサザ**) 游菜　(荇菜)

游(at=as) 浮游ナリ　菜(tsa=za)

(8) As-na-lo (**アスナロ**) 易如剺